



Title	IDUN18号 一北欧研究一 刊行にあたって
Author(s)	
Citation	IDUN 一北欧研究一. 2009, 18
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95556
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

IDUN 18 号 ー北欧研究ー 刊行にあたって

本誌は隔年発行ですので前号は2006年に刊行されました。その間、大学組織には大きな変動がありました。前号の「刊行にあたって」で触れましたように、大阪外国語大学は2007年10月1日をもって大阪大学と統合いたしました。統合後の組織は本学のホームページなどをご覧いただければ幸いです。私たちデンマーク語・スウェーデン語研究室のスタッフは全員、世界言語研究センターに所属し、外国語学部や言語文化研究科の言語社会専攻の授業を担当するということになり、実質旧大阪外国語大学のそれをほぼ引き継いでいます。研究面では統合後、今回はじめて世界言語研究センターの一員としてデンマーク語・スウェーデン語研究室のIDUN刊行となり、その研究を世に問うことになりますが、北欧研究の姿勢そのものは旧大阪外国語大学時代から何ら変わりはありません。ただ、この転機をきっかけに、デンマーク語・スウェーデン語研究室スタッフ全員新たな気持ちをもって引き続き研究・教育に真摯に取り組んでゆく所存です。今後とも、皆様からのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。以下に簡単ではありますが、この2年間の研究室の様子などを時系列でご紹介したいと思います。

● 2007年3月23日

〈大阪外国語大学における最後の卒業式に駐日デンマーク大使が来賓出席〉

デンマーク語専攻の外国人招聘教員である Bente Høilund 先生が大阪外国語大学の最後の卒業式に Freddy Svane 駐日デンマーク大使をお誘いしたところ、非常に気さくなお人柄の大使は即快諾してくださいました。大使の大阪外国語大学卒業式ご出席のニュースは、新聞社に就職したデンマーク語専攻の卒業生が夕刊の記事として事前に取り上げるところとなりました。そして卒業式で大使は卒業していく全学生に向かって大変感銘深い祝辞を贈ってくださいました。この卒業式のニュースはデンマーク外務省在日デンマーク大使館のホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ambtokyo.um.dk/da/menu/OmOs/Nyheder/FemDanskStuderendeDimittererFraOsakaGaidaiUniversity.htm>

● 2007年4月1日

〈スウェーデン語専攻に新外国人招聘教員赴任〉

Johanna Karlsson 先生はルンド大学ご出身でスウェーデン語教育、音声学をご専門です。持ち前の明るさと親しみやすさ、そして熱心な指導で学生たちにとても人気があります。これからも本学での活躍が楽しみです。

● 2007 年 12 月 7 日

〈スウェーデン語専攻 “2007ÅRS INSTITUTION FÖR FRÄMJANDE AV SVENSKA SPRÅKET OCH KULTUREN I UTLANDET” を賞受賞〉

これはその年に世界でスウェーデン語・スウェーデン文化の促進に最も寄与した教育研究機関に贈られる功労賞で、スウェーデン政府広報機関（外務省）である Svenska institutet から贈られます。2007 年は本学のスウェーデン語専攻がその名誉に浴したということになります。今回の受賞はアジア・オセアニアでは初めてで、これは現スタッフばかりでなくスウェーデン語専攻が設立されて以来ずっと本学のスウェーデン語教育そして研究に熱心に取り組んでくださった菅原邦城大阪外国語大学名誉教授をはじめとする数多の先生方、そして本学でスウェーデン語修得に励み、社会で目下活躍している卒業生諸君たちのたゆまぬ努力の賜物です。篤く感謝申し上げます。詳しくは本学の広報誌『阪大 NOW』No. 102, 2008 年 2 月号の 43 頁を見ていただけたら幸いです。

● 2008 年 5 月 23 日

〈「スウェーデン留学フェア」開催〉

スウェーデン留学フェアは世界言語研究センターとスウェーデン大使館との共催で、吹田キャンパス医学部銀杏会館にて 5 月 23 日に催されました。当日は東京から Stefan Noreén 大使、またスウェーデンからは Svenska institutet より Monika Wirkkala 国際部長補佐もおいでくださいり、さらに東海大学川崎一彦教授、スウェーデン大使館速水望報道補佐官にも講演をしていただきました。もちろん本学のスウェーデン語専攻の教員も学生たちもスウェーデン留学に関する講演やフリートークに積極的に貢献いたしました。当日は本学の学生、教職員はもちろん、一般の方々も含め 130 名近くもの参加者があり、好評なアンケートを多数頂いたことから、大成功であったと確信しております。これも詳しくは、『阪大 NOW』No. 104. 2008 年 6 月号の 25-26 頁を参照していただけだと嬉しく思います。

● 2008 年 10 月 15 日

〈ノルウェー大使館の Kari Hirth 参事官の講演〉

豊中キャンパスの 2008 年 10 月 15 日、1 年生向けの共通教育科目「欧米の文化と社会を知る（北欧事情）」の授業で “Contemporary Norway” という題目で講演をしていただける機会に恵まれました。現職の外交官であられる Hirth 氏からお話を伺うことは、学生たちにとって、とりわけ貴重な体験になったに違いありません。

● 2009年3月31日

〈デンマーク語専攻・外国人招聘教員離任〉

デンマーク語専攻の Bente Høilund 先生はこの3月末をもって本学での任期を満了して、デンマークに帰国されます。前任校の東海大学でのご教鞭を合わせると、ちょうど10年日本に滞在されたことになります。Høilund 先生は本学において常に学生たちから信頼され、慕われる存在でした。とりわけ、Høilund 先生がデンマーク語の語劇において、台本作成に始まり、授業内の熱心な指導も含めて多大な貢献をされたことは特筆すべき事柄かと思います。またスウェーデン語専攻の外国人の先生と、毎年12月13日にルシーア祭を企画され、北欧の文化を日本の学生たちに伝えようと心血を注がれた事も決して忘れられない思い出です。ここにデンマーク語・スウェーデン語研究室全員、Høilund 先生の本学におけるデンマーク語教育へご貢献に深く感謝して、今後、デンマークにおけるさらなるご活躍、ご発展をお祈りしたいと思います。

統合によりその他の変化した点を述べておきたいと思います。旧大阪外国語大学とコペンハーゲン大学ならびにイェーテボリ大学それぞれと締結された学術交流協定・学生交流覚書は統合後は大阪大学としての大学間協定になり、しかも今まででは相互に派遣する学生枠が拡大されたおかげで、今後は交流の発展がますます期待できるでしょう。

一方、デンマーク語、スウェーデン語専攻語学生による語劇は統合後の2008年も実施されました。この伝統が今後も続くことをデンマーク語・スウェーデン語の教員全員強く願っているところです。

最後に、本誌はかねてより、院生に限らず、デンマーク語・スウェーデン語スタッフ全員の原稿に対しても査読を行ってきましたが、本号よりそれを投稿規定に盛り込み明文化いたしました。冒頭でも触れましたが、統合を期に、世界言語研究センターに所属するデンマーク語・スウェーデン語研究室全員、常に切磋琢磨し日本の北欧研究発展への源となるべく今後とも努力を重ねてゆきたいと思っております。

2009年3月12日

大阪大学 世界言語研究センター
デンマーク語・スウェーデン語研究室

デンマーク語専攻 <http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/danish/top.html>
スウェーデン語専攻 <http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/swedish/startida.html>